

第11回総会議案書



岩手地区まちづくり協議会

岩手まち協・第11回総会次第

日 時 令和4年4月17日 10時～

場 所 岩手小学校体育館

次 第

1. 開会のあいさつ
2. 会長あいさつ
3. 来賓祝辞
4. 資格審査
5. 議長選出
6. 議事

第1号議案	令和3年度事業報告
第2号議案	令和3年度決算・監査報告
第3号議案	令和4年度事業計画(案)
第4号議案	令和4年度予算(案)
第5号議案	その他

《添付資料》

岩手地区まちづくり基本構想
まち協規約
まち協活動体系概念図
専門部の構成

7. 議長降壇
8. 閉会のあいさつ

以上

第1号議案 令和3年度事業報告



令和3年度事業報告

令和3年度は、新型コロナウイルス感染症に対して4月に県独自の「非常事態宣言」が発せられ5月・6月と国の「まん延防止等重点措置」、8月・9月には県独自の「非常事態宣言」に続き、国の「まん延防止等重点措置」「緊急事態宣言」、そして令和4年1月・2月・3月と国の「まん延防止等重点措置」が発せられました。

こうした状況下においては、感染防止の取り組みが最優先の課題となり、地域や学校の多くの行事や会合が中止を余儀なくされました。

岩手まち協においても4月17日に予定していた第10回総会を新型コロナウイルス感染症対応として3密(密閉・密集・密接)を避けるために、場所を岩手小学校体育館に変更をして行いました。春から夏にかけてメインの行事である「ホテル祭り」「夏祭り」「運動会」は昨年につき中止、秋の「芸術文化祭」は昨年同様に規模を縮小して行うなど、厳しい事業運営を迫られました。

小学生を対象とした「地域子ども教室(菁莪塾)」は、10回予定していたものが半分の5回の開催に終わり、小学生には寂しい思いをさせることとなりました。

10月～12月にかけては、ワクチン接種が進み、感染拡大の規模が縮小する様子を見せたため、地域の皆さんが参加できる事業を進めてきました。しかし、また年が明けてから「コロナウイルス(オミクロン株)の感染拡大の兆候が現れ、「県独自の非常事態宣言」、「まん延防止等重点措置」が3月までつづきました。

このように、コロナ禍に見舞われた1年でしたが、昨年ひき続き岩手まち協として何ができるかを考え「岩手まち協とは何か」を改めて周知していく活動として、設立以来の課題であった情報発信「ホームページの強化」に取り組みました。垂井町のホームページ内にある「協働のまちづくり」内にある「岩手地区まちづくり協議会」のページの充実を図りました。

以下、厳しい環境の中ではありましたが、そうした中で展開できた数少ない事業について振り返り、次年度以降の活動に活かしていきます。

1. 生涯学習事業

この事業は、一般教養講座、スポーツ講座、地域子ども教室、クラブ・サークル活動の4部門があり、一般教養講座では「しめ縄づくり」「レザークラフト」「ワイン勉強会」の3講座にとどまりました。総参加人員は37名でした。

スポーツ講座は開催できず、地域子ども教室は、菁莪塾が5回、こども生け花教室が12回開設され延べ378名が参加しました。

クラブ・サークル活動は、地区センター、小学校の体育館を活動拠点とする16団体が趣味や健康活動を展開していますが、新型コロナウイルスの感染拡大防止のために地区センターの利用停止や利用自粛を行ったことにより、令和3年度の利用者数は、延べ5,100名にとどまりました。

2. 地域ふれあい事業

この事業の中核である4大行事のうち「ホタル祭り」「夏祭り」「運動会」は中止を余儀なくされ「芸術文化祭」は、昨年同様に規模を縮小し地区センターにおいて作品展示のみを行いました。

新型コロナウイルスの感染拡大防止を考える中で、屋外で行うスポーツ・レクリエーション事業の開催を模索し、「ウォーキング大会」「グラウンドゴルフ大会」「ゴルフ大会」を実施しました。

芸術文化祭は地区センターにおける作品展示のみとなりましたが、こども園、小学校、中学校の積極的な参加、クラブ・サークルや地域の皆さんの参加により予想を上回る作品が出品され、3日間の開催期間中にのべ556名を超える皆さんが会場を訪れてくれました。

スポレク事業は、3事業で278名の参加となりました。春のウォーキング大会では、121名の参加があり、菩提山城跡登山コース、明神湖一周コース等を歩き新緑を肌で感じることができました。

青少年育成地域づくり推進事業の中核である、青少年育成協力推進員と北中学校の地区長を中心とした活動は、美化活動(県道53号・明神湖清掃)の実施、環境美化看板作成、ラジオ体操大会を実施することができ、活躍の場を設けることができました。ホタル祭りや夏祭りの中止に伴いバザーがなくなり、その活躍の場を設けることはできませんでした。

岩手地区の大人が青少年を見守り、その健全な育成に努めることを確認する場である「青少年健全育成地区民大会」は、コロナウイルス感染対策を徹底して実施しました。コロナ禍にあっても、子供たちが「心身ともに健全な育成が必要である」ことを改めて確認し合う場となりました。参加者は149名でした。

3. 協働のまちづくりの推進を図る事業

この事業は、安心・安全のまちづくり活動、地域福祉の向上を図る活動、文化財整備事業、広報活動が主要な活動です。

安心・安全のまちづくり活動については、災害図上訓練や防災交流会を企画していましたが屋内活動が中心であったため、中止としました。

子供見守り活動は、76名の活動員が、登下校時の見守り、農作業などをしながらの見守りを行って頂いています。更に見守りステッカーを貼付した自家用車による巡回見守りにも取り組んでいただきました。(小学校の協力を得て、ステッカーを新しくしました)

「救急医療情報キット」は、赤ちゃんから高齢者まで、家庭内で情報を共有して万が一に備える活動ですが、情報シートの書き換えなどを継続的に実施することを呼びかけました。

隣近所の助け合い・気遣いを深めるための「愛の見守り活動(黄色い旗運動)」は、向こう三軒両隣のふれあい、ささえあいを醸成することを目的としています。それぞれの地域において隣近所が話し合いて、支え合おうとする機運が盛り上がることを期待しています。黄色い旗が経年変化で劣化しています。地区センターで交換するよう呼び掛けています。

「コーヒーサロン(カラオケサロン)」は、高齢者の皆さんが気軽に集うことができる場として、毎週月曜日に開催してきました。5年目を迎えました。コロナ禍の中で休止期間もあり、500名程度の参加者となりました。

文化財整備事業は、例年通り7月、8月の2回計画しましたが、両月とも天候に恵まれず中止しました。

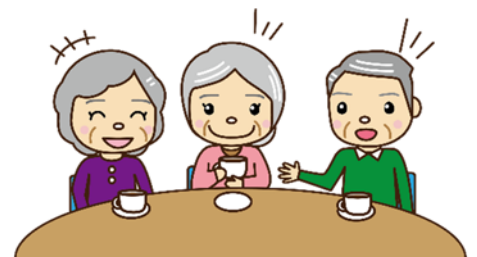
菩提山城跡の整備については、菩提山登山路愛護会との協同事業として、ゴールデンウィーク前のハイキングコースの整備や城跡の清掃・整備を行うと共に、城跡の斜面に山つつじを植栽する事業も継続して行っています。

広報活動については「まち協だより」の定期発行に加えて、ホームページの拡充を行いました。

4. その他協議会の目的を達成するために必要な事業

毎月第4水曜日の定例役員会、主要行事に向けた運営委員会、年間活動の企画や実施に向けた専門部会や実行委員会についても、新型コロナウイルス感染防止の観点から様々な事業が中止・縮小されたことから大幅に回数減となりました。

最小限の会議開催となりましたが、概ねタイムリーに会議を開くことができたと判断しています。コロナ禍の終息が見通せない中ではありますが、より活動の幅と深みを追及することも重要な課題であると考え、役員会として諸会議の活性化を図り、事業展開が、よりスムーズに進められるよう努めてきました。



	会議等	安心・安全部	健康福祉部	子ども育成部	芸術文化部
具体的事業	役員会(毎月第4水曜日) 運営委員会(6回)	災害図上訓練 子ども見守り活動 交通安全対策 自主防災隊の連携について 災害時の要支援者対応	社会福祉協議会との連携による見守りネットワークの強化 ひとり暮らしの高齢者家庭訪問、給食サービス(見守りネットワーク) 要支援者マップの作成 コーヒースロン・カラオケサロンの開催	子ども教室(菁莪塾) 子ども会活動の支援 小学校留守家庭児童教室支援 ラジオ体操大会 青少年健全育成地区民大会 中学生の地域貢献活動支援	夏祭りの企画運営 芸術文化祭の企画運営 教養講座、歴史講座5回 特別講座
4月	16日 総会準備 17日 岩手まち協総会 17日 役員会 28日 役員会 各専門部会	子ども見守り活動 29日 安心安全部会	15日 シニアはつらつ教室 —日 給食サービス		11日 歴史と文化を守る総会
5月	16日 運営委員会① →書面 23日 ウォーキング大会 26日 役員会	子ども見守り隊	12日 健康福祉部会 20日 シニアはつらつ教室 —日 給食サービス	7日 子ども育成部会	20日 芸術文化部会
6月	23日 役員会	子ども見守り活動 14日 災害図上訓練ディグ	17日 シニアはつらつ教室 —日 給食サービス	5日 菁莪塾①ホテル観察	3日 ホテル撮影勉強会 —日 料理教室 20日 レザークラフト教室 21日 芸術文化部会
7月	4日 文化財整備作業 4日 運営委員会② 28日 役員会	子ども見守り活動	15日 シニアはつらつ教室	18日 ラジオ体操大会後の バイパス・明神湖清掃 29・30日 菁莪塾② プログラミング教室 31日 菁莪塾③(アユつかみ)	—日 歴史と文化勉強会 4日 芸術文化部会 (運営委員会後) 28日 芸術文化部会
8月	22日 文化財整備作業 22日 運営委員会③ 25日 役員会	8日 防災教室 子ども見守り活動	19日 シニアはつらつ教室		14日 夏祭り 14日 着付け教室 22日 芸術文化部会
9月	18日 町民運動会 22日 役員会	子ども見守り活動 26日 災害図上訓練ハダ	16日 シニアはつらつ教室 —日 給食サービス	4日 菁莪塾④エゴ工作 11日 菁莪塾⑤星空観察	
10月	2日 運営委員会④ 24日 ウォーキング大会 27日 役員会	子ども見守り活動	21日 シニアはつらつ教室 —日 給食サービス	11日 こども園 踊り披露 28日 こども園 ハロウィン来館	—日 料理教室 —日 芸術文化部会 —日 歴史と文化勉強会
11月	21日～23日 芸術文化祭 24日 役員会 28日 地区民大会実行委	14日 災害図上訓練 夕日スロドゲーム 子ども見守り活動	18日 シニアはつらつ教室 —日 給食サービス	13日 菁莪塾⑥地域歴史学習 22日 菁莪塾⑦菩提山登山	20日 芸術文化祭準備 21～23日 芸術文化祭 —日 日本酒セミナー
12月	5日 運営委員会⑤ 18日 地区民大会準備 19日 地区民大会 22日 役員会	子ども見守り活動	16日 シニアはつらつ教室 —日 給食サービス	11日 菁莪塾⑧リース作り 15日 菁莪塾⑨しめ縄作り 18日 地区民大会準備 19日 地区民大会 20日 こども園 クリスマス来館	4日 ワインセミナー 18日 しめ縄作り教室 —日 園芸教室
1月	26日 役員会	子ども見守り活動	20日 シニアはつらつ教室 —日 給食サービス	12日 こども園 新年挨拶来館	
2月	23日 役員会	子ども見守り活動 20日 防災防犯交流会	17日 シニアはつらつ教室 —日 給食サービス	5日 菁莪塾⑩そば打ち	6日 料理教室⑤(そば打ち)
3月	17日 運営委員会⑥ 23日 役員会	子ども見守り活動	17日 シニアはつらつ教室 —日 給食サービス	10日 菁莪塾⑪己書 16日 菁莪塾⑫菩提山登山 —日 子ども育成部会(下旬)	14日 クラブ・サークル会議
			健康講座 月1回シニアはつらつ教室 (健康福祉課)		

令和3年度 岩手地区まちづくり協議会 主な事業報告

— は、中止した行事

令和3年4月1日～令和4年3月31日

	スポレク部	体推	環境整備部	青推	その他
具体的 事業	町民運動会の企画運営 スポーツ講座 春秋スポーツ・レクリエーション 行事の企画運営	住民の健康増進	農地・水・環境保全組合との連携 環境美化デー 文化財整備事業、観光対応事業 蛸が育つ環境の維持・啓蒙、 ホテル祭りの企画運営	青少年の健全育成	
	スポーツ講座 生涯スポーツの振興		中学生の地域貢献活動支援 青少年の健全育成に関わること		
4月	25日 スポレク部会	18日 体推①	25日 菩提山城跡登山道整備	11日 青推員会①	3・25日 菩提山城跡整備 (菩提山城登山路愛護会)
5月	23日 ウォーキング大会	30日 町スポレク祭	1日 環境整備部会 29日 岩手川沿い草刈り 30日 足下ライト設置	9日 青推員会② 9日 地区長会	15日 菩提山城跡整備
6月	2日 グラウンドゴルフ大会打合せ 17日 グラウンドゴルフ大会	27日 町体推研修会	3日 ホテル撮影勉強会 5日 ホテルまつり 14日 足下ライト撤収	5日 青推員会③ 20日 七夕飾り 環境美化看板作り	
7月	25日 スポレク部会		4日 文化財整備事業① 18日 ラジオ体操大会後の バイパス・明神湖清掃	3日 青推員会③ — あじさい花壇整備 18日 ラジオ体操大会 18日 環境美化活動 18日 青推員会④ 31日 アユつかみ	10日 赤報隊慰霊祭 神田公平を偲ぶ会
8月	22日 スポレク部会 (運営委員会後) 29日 スポレク部 -体推合同会議	29日 体推②役員会	1日 環境美化デー 22日 文化財整備事業②	14日 青推員会⑤(地区長) 22日 あじさい花壇整備、 — 環境美化看板設置と撤去	8日 菩提山城跡整備 29日 史跡探訪(三木市)
9月	18日 運動会 27日 スポレク部会	18日 運動会 26日 体推③			5日 菩提山城跡整備
10月	7日 スポレク部会 9日 ドッチビー教室 17日 秋のスポーツ大会 ドッチビー 20日 グラウンドゴルフ大会 24日 ウォーキング大会	9日 ドッチビー教室 17日 秋のスポーツ大会 ドッチビー 20日 グラウンドゴルフ大会 24日 ウォーキング大会		3日 青推員会⑤ — あじさい花壇整備	
11月	1日 ゴルフ大会			7日 芸術文化祭(地区長) 4・5日 プランター、花壇へ花苗 植付け(小学校) 21日 青推員会⑤ 環境美化看板作り	28日 地区民大会実行委員会
12月		12日 町一周駅伝		18日 地区民大会準備 19日 地区民大会(北中地区長)	19日 地区民大会 11・20日 菩提山城跡整備 桜など植栽
1月					
2月		6日 体推④		6日 青推員会⑥	
3月		6日 体推④		6日 青推員会⑥	13・21日 菩提山城跡整備 つつじ植栽

第2号議案 令和3年度決算・監査報告

一般会計

自：令和3年4月1日

至：令和4年3月31日

収入の部

単位：円

項目	予算額	決算額	適用
前年度繰越金	191,258	191,258	
垂井町交付金	2,112,000	2,112,000	垂井町
助成金	330,000	330,000	連合自治会
補助金	160,000	160,000	垂井町（菁莪塾）
	200,000	200,000	青少年町民会議（地域づくり事業）
	100,000	115,000	社会福祉協議会
雑収入	59,742	114,913	預金利息、参加費等
計	3,153,000	3,223,171	

支出の部

項目	予算額	決算額	適用
人件費	575,000	551,924	
事業費	1,161,000	561,327	
広報活動費	30,000	23,760	
会議費	70,000	112,897	
事務局費	517,000	595,731	
保険料	160,000	141,410	
青少年団体活動費	440,000	290,000	菁莪塾、青少年育成地域づくり事業
地域福祉事業費	170,000	151,089	
予備費	30,000	0	
垂井町への返戻金	0	474,541	交付金、菁莪塾返戻
計	3,153,000	2,902,679	

残高の部

収入	支出	残高
3,223,171	2,902,679	320,492

会計 溝口浩一 ㊟

田辺定幸 ㊟

特別会計

自：令和3年4月1日

至：令和4年3月31日

収入の部

単位：円

項目	決算額	適用
前年度繰越金	493,001	
グッズ等販売	40,000	半兵衛関連
雑収入	4	利息
計	533,005	

支出の部

項目	決算額	適用
	0	
計	0	

残高の部

収入	支出	残高
533,005	0	533,005

監査報告

令和3年度の一般会計、特別会計の決算書及び会計簿、預金通帳、領収書、その他関係書類を詳細に監査した結果、正確に記入され相違なきことを認めます。

令和4年4月6日

監事 熊崎 皓一 ㊟

浅野美津子 ㊟

第3号議案 令和4年度事業計画(案)

はじめに

今年度も昨年度に引き続いて、新型コロナウイルス感染症の感染予防が、私たち岩手まち協や地域の皆さんに強く求められています。昨年度末からコロナウィルスのオミクロン株による感染が急拡大し(第6波)、手洗い・うがい、三密の回避、マスクの着用の徹底が求められています。

岩手まち協が行う全ての事業に対して、WITH コロナの時代認識のもとに、感染予防策を徹底し、一昨年度、昨年度と実施できなかった事業に改めて取り組んでいきます。さらに、3年前に実施した住民主体のまちづくりアンケートの結果に基づく活動として、安心安全のまちづくり、防災にかかわる事業(図上災害訓練等)の推進をしていきます。

また、これまで以上に地域自治の推進母体である連合自治会と手を取りあって、9年間の活動の成果と課題に真正面から向かい合い、SDGs(エスディーズ)の17の目標を念頭におきながら、より住みやすい岩手地区のまちづくりに取り組んでいきます。

岩手まち協は、地域づくりの役割を担う中核として活動します

垂井町の中でも、少子化・高齢化が顕著に進んでいる岩手地区です。このことに対応するためには、垂井町や学校、地域の皆さんと手を携えて、岩手地区で育つ子供たちが元気に学び、遊び、自分たちのふるさと岩手を思う心を醸成するとともに、岩手地区で生活する高齢者の皆さんが、安心して安全に楽しく過ごしていくまちづくりを進めることが重要です。

岩手まち協は地域づくりの中核であることを改めて自覚し、全ての事業を、まち協と連合自治会(自治会長の皆さん)が車の両輪となって、垂井町や垂井町社会福祉協議会との連携をさらに深め、運営委員会の議論を深める中で、全ての構成団体の皆さんと意思疎通を図り、協力を得て活動を展開していきます。

以下、まちづくり基本構想に基づき、令和4年度の具体的な活動を提案します。



令和4年度の主要事業

本年度の主要事業は次の通りとし、地域の皆さんに行事やクラブ・サークル活動への参加を幅広く呼び掛ける宣伝活動も積極的に行っていきます。

《 主要な行事日程はPIIを参照 》



1. 生涯学習事業

(1) 一般教養講座

① 歴史教室

岩手の歴史と文化を守る会、竹中半兵衛重治公顕彰会との連携を図ると共に岩手地区、竹中半兵衛以外の様々な歴史と文化にも触れる活動を進めます。

② 料理教室

③ 園芸教室

④ しめ縄づくり教室

⑤ クラブ・サークルと連携して新講座の開設に努めます。

⑥ 特別教室(己書[自分だけの書]、レザークラフト、包丁研ぎ、パソコン、チーズ・ワイン等)の開設に努め、クラブ・サークルの新設を目指します。



(2) スポーツ講座

スポレク部及び体育推進員会を中心に、秋のスポーツ大会に向けた講座に加え、ノルディックウォーク、ゴルフや老人クラブと連携したペタンク等の講座開設を図ります。

(3) 地域子ども教室(菁莪塾、子ども生け花教室)

岩手まち協として、パソコンを使ったプログラミング教室の開設を図ります。

2. 地域ふれあい事業

(1) ホタル祭り(農地・水・環境保全組合と共催)

岩手地区以外への広報、イベントの充実を図ります。

(2) 若者が地域の活性化に挑戦する事業

20~40代の男女が集い、岩手地区の活性化を図るためのイベント開催にチャレンジできるよう、予算措置を含め環境を整えていきます。

(3) スポーツ・レクリエーション事業(体育推進員会との連携)

ウォーキング、グラウンドゴルフ、ドッジビーなどの軽スポーツ大会を進めます。

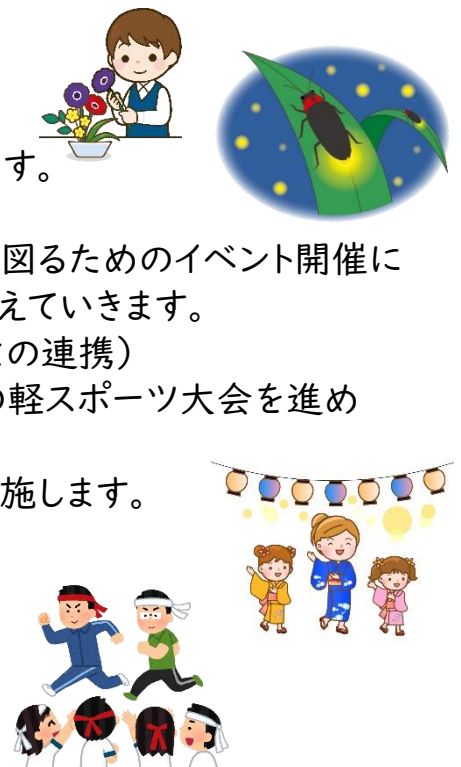
一昨年初めて実施したゴルフ大会を継続して実施します。

(4) ラジオ体操大会

(5) 夏祭り(盆踊りを中心)

(6) 岩手地区運動会(町民運動会を小学校と共催)

(7) 芸術文化祭(小学校と共催)



(8) 青少年育成地域づくり推進事業

青少年育成協力推進委員会との連携により、中学生ボランティアと自治会長や環境整備部の皆さんが協力する環境美化活動、環境看板づくり、青少年健全育成地区民大会を開催します。

(9) カラオケ教室やカラオケ大会(老人クラブと共催を図る)

(10) コーヒーサロン、カラオケサロンの充実

(11) クラブ・サークル活動

クラブ・サークル活動の成果を、地域の皆さんと共有するための作品展示会を芸術文化祭にとどまらず、地区センターのロビーで開催することを模索します。



3. 協働のまちづくりの推進を図る事業

(1) 安心・安全のまちづくり活動

① 災害図上訓練を行い、災害発生時の対応力を強化します。
ディグ、ハグ、クロスゲーム、防災教室等

② 自治会や自主防災隊と連携して要支援者マップを作製します。

③ 子ども見守り活動を充実します。

④ 社会福祉協議会と連携し地域見守りネットワークを充実します。

愛の見守り活動(黄色い旗運動)の継続・発展

救急車を要請した時に役立つ救急医療キットの継続・発展

(2) 文化財等整備事業

櫓門周辺、逆さ杉、菩提山城址、菩提山・逆さ杉ハイキングコース

などの整備事業を竹中半兵衛重治公顕彰会、逆さ杉保存会と共同で進めます。

(3) 広報活動

① まち協だよりの発行

毎月発行することを大切に、活動報告やトピックスの紹介、講座への参加呼びかけ、クラブ紹介・参加呼びかけなど、まち協の広報宣伝活動の核とします。

② 「岩手まち協」を外部へ発信

垂井町のホームページ上に「協働のまちづくり」と言うアイコンが設けられ、そこに「岩手まち協のページ」が設定されています。《 P30~31を参照 》インターネットの検索サイトで「岩手まち協」と入力すると、岩手地区まちづくり協議会の頁を開くことができます。これを有効に活用していきます。

③ まち協行事の案内チラシ(A4版)、ポスター(A2版)の作成と啓発

4大行事を中心に、まち協が行う事業案内のチラシを各家庭に配布すると共に、各自治会のクリーンステーションにポスターの掲示を行い、行事の周知を図ることとします。

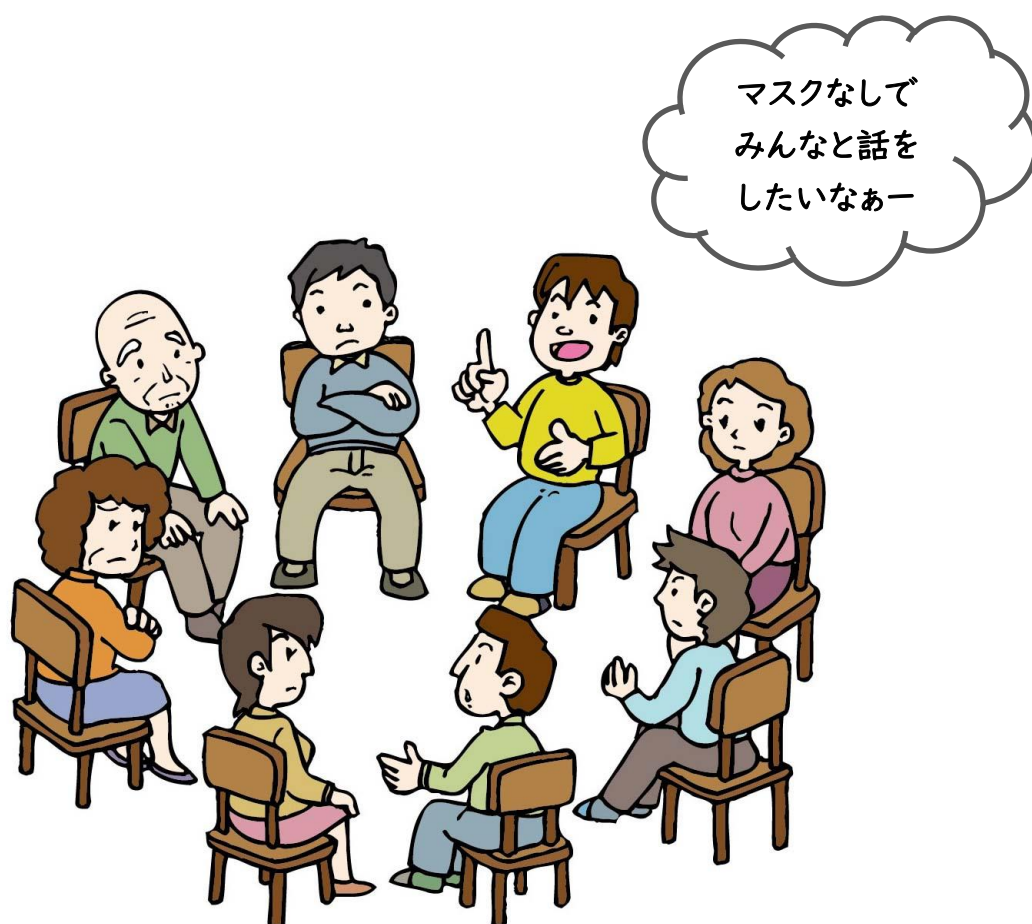


岩手まち協だより

4. その他協議会の目的を達成するために必要な事業

役員会、運営委員会、専門部会などの諸会議を適切に配置して、事業展開がスムーズに進められるよう努めます。

また、地区センターが集いの場となるようロビーの整備を継続して行っています。



令和4年度 主要事業予定

実施予定日	曜日	行 事 名	内容、参加者、関連会議など
4月17日	(日)	第11回岩手まち協 総会	まち協構成団体より各2名の代議員
4月24日	(日)	菩提山城登山路等整備	連休に向けて登山路・城跡等の整備清掃(菩提山登山路愛護会)
5月の早い時期		専門部会	各専門部の活動を協議
5月15日	(日)	第1回運営委員会	ほたる祭りについて
5月22日	(日)	春のスポーツ大会	住民 ウォーキング大会 (スポレク部・体推)
6月22日	(水)		住民 グランドゴルフ大会 (スポレク部・体推)
6月1日～14日	(水)～ (火)	岩手地区ホテル観賞期間	住民 川原集会所・岩手川(川原橋～清水橋周辺)
6月11日	(土)	ホテル祭りイベント	環境整備部を中心としたホテル祭り実行委員会
		菁莪塾①	ほたる観察(小学生希望者:地区センター)(こども育成部)
7月 3日	(日)	文化財整備事業	まち協運営委員 菩提山、逆さ杉、陣屋跡、菁莪記念館等の環境整備を保存会などと合同で行う (環境整備部)
		第2回運営委員会	ラジオ体操大会、夏祭りについて
7月17日	(日)	ラジオ体操大会	住民 (こども育成部)
7月27・28日	(水) (木)	菁莪塾②	プログラミング教室 (3・4・5・6年生希望者:小学校)
7月 30日	(土)	菁莪塾③	鮎つかみ (小学生希望者:川原集会所) (こども育成部・青推)
8月14日	(日)	夏祭り	住民 盆踊等 (夏祭り実行委員会)
8月21日	(日)	文化財整備事業	まち協運営委員 菩提山、逆さ杉、陣屋跡、菁莪記念館等の環境整備を保存会などと合同で行う (環境整備部)
		第3回運営委員会	町民運動会について
9月 3日	(土)	菁莪塾④ 授業日	河川自然観察 (3・4年生)
9月 日	(土)	菁莪塾⑤	星空観察 (小学生希望者:地区センター・小学校) (こども育成部)
9月17日	(土)	地区民運動会	住民(まち協運営委員・小学校・こども園・スポレク部・体推)
10月 1日	(土)	第4回運営委員会	芸術文化祭について
10月 2日	(日)	菩提山ハイキング	竹中半兵衛顕彰会主催
10月 8日	(土)	スポーツ教室	住民 ドッチビーについて (スポレク部・体推)
10月16日	(日)	秋のスポーツ大会	住民 ドッチビー大会 (スポレク部・体推)
10月19日	(水)	菁莪塾⑥	菩提山登山 (5年生)
10月26日	(水)	秋のスポーツ大会	住民 グランドゴルフ大会 (スポレク部・体推)
11月 日	()		住民 ゴルフ大会 (スポレク部・体推)
11月 6日	(日)	芸術文化祭	住民 (まち協運営委員・小学校・芸術文化部)
11月12日	(土)	菁莪塾⑦ 授業日	地域の歴史 (6年生)
11月20日	(日)	第5回運営委員会	青少年健全育成地区民大会について
12月10日	(土)	菁莪塾⑧ 授業日	木の実を使った工作 (1,2年生親子)
12月17日	(土)	青少年健全育成地区民大会	住民 (まち協運営委員・こども育成部・青推)
2月 4日	(土)	菁莪塾⑨	そば打ち (6年生希望者:地区センター)(こども育成部)
3月 5日	(日)	第6回運営委員会	令和4年度の振り返り

・役員会を月1回行う。(原則毎月第4水曜日)

・一般教養講座、特別講座、スポーツ講座、地域子ども教室(菁莪塾)等を計画推進していく。
(菁莪塾は小学校・PTA・青推と連携して進める。)

・まち協では、各専門部が中心となって計画立案実行する。実行に当たっては運営委員が協力する。

第4号議案 令和4年度予算(案)

一般会計

自：令和4年4月1日

収入の部

至：令和5年3月31日

単位：円

項目	令和3年度予算額	令和4年度予算額	適用
前年度繰越金	191,258	320,492	
垂井町交付金	2,112,000	2,085,000	垂井町より
助成金	330,000	330,000	連合自治会より
補助金	160,000	160,000	垂井町より
	200,000	200,000	青少年町民会議より
	100,000	100,000	社会福祉協議会より
雑収入	59,742	54,508	預金利息、参加費等
計	3,153,000	3,250,000	

支出の部

項目	令和3年度予算額	令和4年度予算額	適用
人件費	575,000	575,000	役員手当、報償費
事業費	1,161,000	1,270,000	4大行事、講座、スポーツ大会
広報活動費	30,000	34,000	まち協だより
会議費	70,000	80,000	総会、役員会、専門部会
事務局費	517,000	551,000	備品、消耗品、インク、トナー
保険料	160,000	160,000	傷害保険料
青少年団体活動費	440,000	360,000	菁莪塾、青少年育成
地域福祉事業費	170,000	180,000	サロン、暮らしのサポート
予備費	30,000	40,000	
計	3,153,000	3,250,000	

費用項目間の流用は、役員会の承認を得て行うことができますものとしします。

岩手まち協の役員の年間役員手当(人件費内訳)

会長	220,000円	執行役員	15,000円	1人当たり
副会長	20,000円	会計	10,000円	
事務局長	35,000円	監事	10,000円	1人当たり
事務局次長	20,000円	運営委員など報償費	135,000円	

第5号議案 その他

添 付 資 料

- ・ 岩手地区まちづくり基本構想
- ・ 岩手まち協 規約
- ・ 岩手まち協活動体系概念図
- ・ 岩手まち協専門部の構成
- ・ 愛の見守り活動について
- ・ 救急医療情報キットについて
- ・ SDGs とは？
- ・ 岩手まち協の情報はインターネットで

岩手地区まちづくり基本構想

地区まちづくり協議会設立の意義

岩手地区まちづくり協議会は、垂井町まちづくり基本条例に基づき、垂井町の指導の下に設立されました。

まちづくり協議会は、住民と行政(垂井町)との協働のもと、住民の参加と役割分担によって、責任ある主体的な「まちづくり」を推進することにより「豊かで住みよく、安心して暮らせる」地域を形成することを目的としています。

しかしながら、その実態は、国や自治体の財政が厳しい中で、従来であれば行政に要望したり苦情を言ったりする中で解決してきたものを、住民にできることは自らの手で解決を図らなければならないというものです。

行政の住民に対する押し付けということもできますが、私たちは、視点を変えて「行政にできない、まちづくりをやってやろう」「自分たちの町を、どこよりも良い町にしよう」と言う気概をもって取り組む必要があります。

そのことこそが、岩手地区の住民として、意義ある活動に繋がり、自らをも納得できる行動を起こすことができるのではないのでしょうか。「行政が目を見張る」そんな「まちづくり」を行っていきましょう。

まちづくりの目標と将来像

私たちのまち「岩手地区」は、先人の労苦により受け継がれてきた美しい自然と、竹中半兵衛重治公や伊富岐神社の神楽、集落ごとの祭囃子、大石の花火など誇りが持てる歴史・地域文化があります。里山や岩手地区を流れる河川などの自然は、私たちに無限の恵みを与え続けてくれました。

このような自然や歴史・地域文化の良さを次の世代へと引き継いでいくことは、私たちの大切な役割です。

私たちが取り組む、まちづくりで一番大切なことは「何を行うか」ではなく「何のために行うか」であるといえます。それは「岩手地区に住む私たちが、いきいきと楽しく快適に暮らせるために行う」ことではないでしょうか。

私たちは、次のような「まち」をめざし、岩手地区の良さを次の世代に引き継いでいきます。

「まち」に住む人々の心がふれあい、優しさに包まれた「岩手地区」

「まち」に住む人々の心がひびきあい、いきいきと暮らせる「岩手地区」

そのために、岩手地区の将来像（スローガン）を次のように設定します。

住む人の、心がふれあい、ひびきあう「まち」岩手地区

まちづくりの柱

私たちの「まち」の将来像～住む人の、心がふれあい、ひびきあう「まち」岩手地区～に結び付けていく「まちづくりの柱」を次のように定めます。

1. 誰もが安心して笑顔で暮らせるまちづくり

私たちの「まち」は、豊かな自然に恵まれ、隣人を慈しむ人情いっぱいの住民が暮らす「まち」です。

しかしながら、人口の流出が続き、垂井町内で少子高齢化が最も顕著にみられる地区となっている中で、今一度「隣人を慈しむ人情いっぱい」の心情を高揚させ、誰もが安心して笑顔で、住み慣れた「まち」で子育てを行い、年老いていくことができる。住民同士が支え合い、高齢者や障がい者をサポートすることができる、そのような「まちづくり」が必要です。

近年、何の関わりもないのに子どもや青少年が傷つけられる、登下校の子ども列に暴走自動車が入り込む、振り込め詐欺にみられるようなお年寄りを狙った犯罪などが、毎日のように報道されています。

また、東日本大震災・福島原発事故や各地で頻発するゲリラ豪雨による災害は、記憶に新しいことです。

私たちの町では、幸いにして大きな災害・被害は発生していませんが、東南海地震がいつ来てもおかしくないと言われているように、災害はいつやってくるか予測できないものです。また、交通事故なども「なぜ」という状況で発生します。安心・安全は生活の基本です。

地域の生活は地域の皆で守り、誰もが安心して笑顔で暮らせることができるまちづくりが必要です。

2. 次代を担う子ども達を育むまちづくり

少子化が進行するなかで、地域の将来を担い、地域で活躍する子どもや青少年を育成することが重要な課題となっています。

子ども達が様々な体験や経験をすることで、生涯学習の基礎を身につけると共に、自ら考え、自らの力で今後を乗り切る（自分の将来を切り拓く）力をつけることができます。青少年が、その誇りと責任について自覚をたかめるため、健全な青少年団体及びグループ活動を育成・支援することが必要です。

このような活動を通して、地域の大人たちがもっている様々な技術や知恵を引き継いでいくことによって、次代を担う子どもや青少年達が、ふる里に愛着をもつことに繋がり「まち」の活性化に繋がります。

3. 歴史と文化が薫る個性あるまちづくり

私たちの「まち」は、豊かな自然に包まれて、それぞれの集落に独特な芸能が伝えられると共に、竹中半兵衛重治公に象徴されるように歴史の薫りがあふれている「まち」です。

このような歴史と文化を次の世代に引き継ぐと共に、今を生きる人間として求められる一般常識・教養を高める場、趣味を楽しむ場を提供することも重要

な課題です。

地域の歴史を発掘して発信すると共に、学んだ成果を披露する場も設定して多くの住民がふれあい、絆を深めることが個性ある「まち」に繋がります。

4. 誰もがスポーツを楽しむまちづくり

スポーツという言葉は、若者が「より早く、より高く、より強く」を求め、その成果を求める競技スポーツを連想しますが、平均寿命が延びる中で、人間としての一生を心身ともに健康に過ごすために「生涯スポーツ」という捉え方が広がっています。

私たちが取り組むスポーツは、健康で明るい人生を過ごすための「生涯スポーツ」です。老若男女、誰もが楽しめる軽スポーツを普及させることは、地域住民の体力づくり、体力維持に資することに繋がります。

そして、日頃の活動の成果を発揮する場としてスポーツを楽しむ機会を設け、住民相互のふれあいを深め「まち」の絆を強めます。

5. 環境にやさしいまちづくり

私たちの「まち」には四季折々の彩りをなす山や田畑があり、きれいな水が流れています。こうした自然は、私たちの大切な生活を支え、ときには、私たちの心を和ませてくれるなど、無限の恵みを与え続けてくれます。

このような素晴らしい郷土を、大好きな「まち」を未来に引き継いでいくために、環境保全・環境改善の取り組みは欠かすことができません。

また、歴史的遺産の環境を整備すると共に、そのことを広く発信して歴史と文化の「まち」の誇りをもち続けることも、私たちに課せられた命題です。

具体的な活動

具体的な活動は、まちづくりの5つの柱に沿って、専門部とその所管事項を定め、専門部が立案した企画を「まちづくり協議会」に参加する自治会など構成団体が一丸となって進めます。

5つの柱と専門部

- ① 誰もが安心して笑顔で暮らせるまちづくり・安心・安全部・健康福祉部
- ② 次代を担うこども達を育むまちづくり・・・子ども育成部
- ③ 歴史と文化が薫る個性あるまちづくり・・・芸術・文化部
- ④ 誰もがスポーツを楽しむまちづくり・・・スポレク部
- ⑤ 環境にやさしいまちづくり・・・環境整備部

各専門部の所管事項、具体的事業（活動目標）は、別紙の通りです。
年度毎の活動は年次計画として提起します。

以上

1. この基本構想は平成25年4月21日、第2回総会において制定
2. この基本構想は平成27年4月19日、一部改訂する
3. この基本構想は平成29年4月16日、一部改訂する

岩手地区まちづくり協議会規約

(名称)

第1条 本会は、岩手地区まちづくり協議会(以下「岩手まち協」と言う)と称する。

(事務所)

第2条 岩手まち協の事務所は、岩手地区まちづくりセンター（垂井町岩手608-2）に置く。

(構成)

第3条 岩手まち協は、岩手地区に在住、在勤し、岩手地区において活動する自治会および各種団体（以下「構成団体」と言う）に加入している人をもって構成する。

2 前項の各種団体は、別に定める基準により役員会が認定する。

(目的)

第4条 岩手まち協は、岩手地区の住民、垂井町議会及び垂井町との協働のもと、岩手地区まちづくりセンターを拠点として地域コミュニティを形成し「岩手地区の絆」を強め、豊かで住みよく安心して暮らせる幸福度の高い自主・自立した岩手地区づくりを目的とする。

(事業)

第5条 岩手まち協は、前条の目的を達成するために、次の事業を行う。

- (1) 岩手地区の発展と安全・安心なまちづくりのための事業
- (2) 岩手地区のふれあいを深める事業
- (3) 垂井町議会及び垂井町との協働のまちづくりの推進を図る事業
- (4) 生涯学習事業
- (5) その他、岩手まち協の目的を達成するために必要な事業

(組織)

第6条 岩手まち協は、前条の事業を行うために次の組織を置く。

- (1) 総会
- (2) 運営委員会
- (3) 役員会
- (4) 専門部会

(役員、委員等)

第7条 岩手まち協に次の役員、委員（以下「役員等」と言う）を置く。

- | | |
|-----------|----|
| (1) 会長 | 1名 |
| (2) 副会長 | 1名 |
| (3) 事務局長 | 1名 |
| (4) 事務局次長 | 1名 |
| (5) 執行役員 | 6名 |
| (6) 会計 | 1名 |

- (7) 監事 2名
- (8) 運営委員 会長委嘱人数
- (9) 顧問 会長委嘱人数

2 前項の役員等の内、4号の事務局次長については、総会の承認を得て増員又は置かないことができる。

(役員等の選出)

第8条 役員は、第3条1項に定める構成員から選出するものとする。

- 2 会長は、岩手地区連合自治会の推薦を受けた者を総会に提案し、その承認を得なければならない。
- 3 副会長、事務局長、事務局次長、執行役員、会計、監事は、推薦委員会の推薦を受けた者を総会に提案し、その承認を得なければならない。
- 4 前項の推薦委員会は、7名構成とし、委員は運営委員会で選出する。
- 5 運営委員は、役員会が必要と認める構成団体から推薦を受けた者を、会長が委嘱する。
- 6 顧問は会長が推薦し、役員会の議を得て、会長が委嘱する。

(役員等の任務)

第9条 会長は岩手まち協を代表し、その運営を統括すると共に全ての責任を負う。

- 2 副会長は会長を補佐し、会長事故あるときは、その職務を代行する。
- 3 事務局長は、岩手まち協の事務局を主宰する。
- 4 事務局次長は事務局長を補佐し、事務局長事故あるときは、その職務を代行する。
- 5 執行役員は専門部会を担当する。
- 6 会計は岩手まち協の出納、経理事務を掌理する。
- 7 監事は岩手まち協の監査事務を司る。
- 8 運営委員は岩手まち協の運営及び事業活動を円滑に遂行する。
- 9 顧問は、会長の求めに応じ会議に出席し、必要な助言を行う。

(役員等の任期)

第10条 第7条1項1号から7号の任期は、2年（総会から翌々年の総会まで）とする。但し、再任は妨げない。

- 2 第7条1項8号から9号の任期は、1年（総会から翌年の総会まで）とする。但し、再任は妨げない。
- 3 役員に欠員が生じた場合は、第8条の定めにと拘わらず、役員会の議を経て、運営委員会の承認を得て補充することができる。
- 4 補充役員の任期は、前任者の残任期間とする。

(総会)

第11条 総会は、岩手まち協の最高決定機関であり、役員及び構成団体から選出された者（以下「代議員」と言う）をもって構成し、毎年1回定期総会を開催する。

但し、会長が必要と認めた場合及び運営委員の2分の1以上の要請があった場合には、臨時総会を開催することができる。

- 2 構成団体から選出される代議員は、それぞれ2名とする。

2名の内、1名は、自治会においては自治会長、各種団体においては、その団体の代表者（会長など）とする。

構成団体の代表者が岩手まち協の役員に就任している場合は、代表者の代替代議員を選出・派遣しなければならない。

- 3 総会の議長は、代議員の中から選出する。
- 4 総会は、代議員の過半数の出席（委任状を含む）で成立し、出席者の過半数によって議決する。但し、可否同数の場合は議長がこれを決する。
- 5 総会は、次の事項を審議決定する。
 - (1) 事業計画及び事業報告
 - (2) 予算及び決算、会計監査報告
 - (3) 役員等の選出・承認
 - (4) 規約の制定・改廃
 - (5) その他、重要な事項

(運営委員会)

第12条 運営委員会は、総会で決定された事業計画を執行すると共に、総会に次ぐ決定機関として、第7条で定める役員等で構成し、会長が必要と認めた時に招集する。

- 2 運営委員会は、総会で決定された事業計画を推進するための行事計画及びその予算、決算、その他必要な事項を審議する。
- 3 運営委員会の議長は、会長とする。
- 4 運営委員会は、運営委員の過半数（委任状を含む）の出席で成立し、その議事は、出席者の過半数によって議決する。但し、可否同数の場合は役員会がこれを決定する。
- 5 会長は、必要に応じ、学識経験者などを運営委員会に参加させ、助言を得ることができる。

(役員会)

第13条 役員会は、総会で決定された事業計画の執行権限及び責任を有し、会長、副会長、事務局長、事務局次長、執行役員、会計、監事で構成し、会長が必要と認めた時に招集する。

- 2 役員会は、岩手まち協の運営及び事業計画等の方針を協議し、必要な事項を総会または運営委員会に提起する。
- 3 役員会の議長は、会長とする。

(専門部会)

第14条 岩手まち協に次の専門部を置く。

- (1) 安心・安全部
 - (2) 健康福祉部
 - (3) 子ども育成部
 - (4) 芸術・文化部
 - (5) スポーツ・レクリエーション部(スポレク部)と改称
 - (6) 環境整備部
- 2 専門部は、役員会が指名する構成団体が推薦する者により構成する。

- 3 役員会から指名を受けた構成団体は、1～2名の専門部員を選任し、事務局長へ届け出るものとする。
- 4 専門部に次の役員を置く。
 - (1) 部長 1名
 - (2) 副部長 若干名
- 5 部長は執行役員が、副部長は自治会長が務める。
- 6 部長は、部会を主宰する。
- 7 副部長は部長を補佐し、部長事故あるときは、その職務を代行する。
- 8 専門部は、部長が招集し、事業計画に基づき所管事項の具体的な事業の企画及び執行にあたる。
- 9 専門部の所管事項は別に定める。

(会計)

- 第15条 岩手まち協の経費は、垂井町からの交付金・補助金、岩手地区連合自治会からの補助金、寄付金及びその他の収入を持って充てる。
- 2 岩手まち協の会計年度は、毎年4月1日から翌年3月31日までとする。
 - 3 岩手まち協の会計処理は、別に定める会計規則による。

(事務局)

- 第16条 岩手まち協の円滑な運営を行うため、事務局を設置する。
- 2 事務局に、運営委員会の承認を得て、事務員を置くことができる。

(規則・細則・要綱等)

- 第17条 この規約に定めるものの他、規則・細則・要綱等必要な事項は、会長が役員会の議を経て運営委員会に諮って定めることができる。

附則

- 1 この規約は、岩手まち協の設立総会（平成24年12月2日開催）の承認を得て制定・施行される。

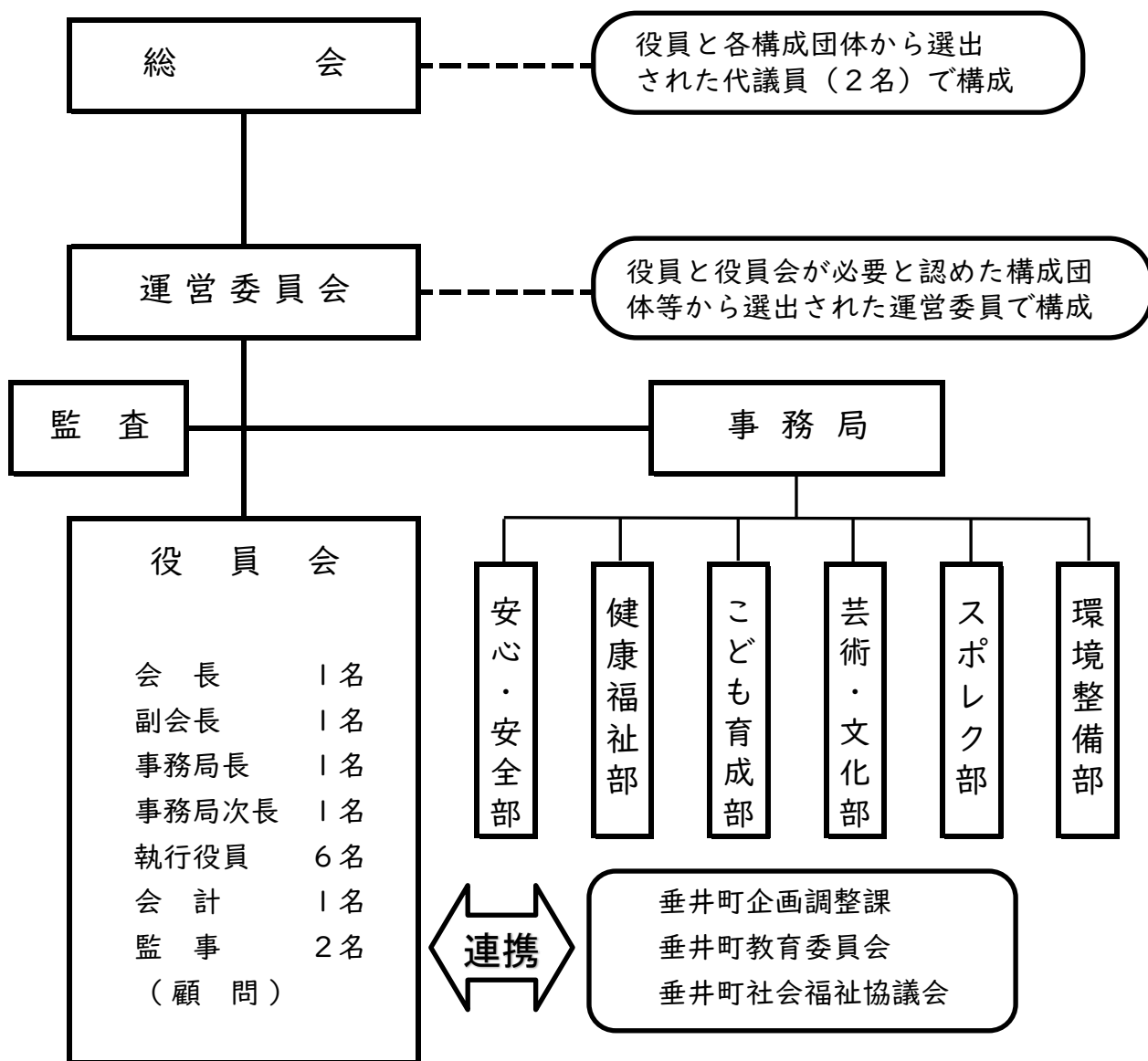
しかしながら岩手まち協が予算を確保して本格的に活動を開始するのは、平成25年4月1日以降となることから、設立総会から平成25年度の総会までは、本格的な活動開始に向けた準備期間となる。

よって設立総会で選出される役員の任期は、第10条の規定に拘わらず、平成25年度の総会までとする。

そのため、準備期間中は、規約の全てを施行するものではなく、設立総会で決定された活動に限定して、この規約を適用するものとする。
- 2 この規約は平成25年4月21日に一部改訂し全面施行する。
- 3 この規約は平成27年4月19日に一部改訂し全面施行する。
- 4 この規約は平成29年4月16日に一部改訂し全面施行する。

以上

岩手地区まちづくり協議会活動体系概念図 令和4年度



- 構成団体 (順不同)**
- 岩手地区にお住いの皆さんは、下記の団体を通じて全ての皆さんがまちづくり協議会の構成員です。
- | | | | |
|-------------|-----------|----------------|-----------|
| 菩提田町自治会 | 川原自治会 | 長畑自治会 | 南長畑自治会 |
| 五明自治会 | 下町自治会 | 漆原自治会 | 南漆原自治会 |
| 宮之前自治会 | 谷自治会 | 伊吹自治会 | 大石自治会 |
| 北中学校 | 岩手小学校 | 岩手幼保園 | 子ども会・育成会 |
| 民生児童委員 | 老人クラブ連合会 | 商工会 | 消防・岩手分団 |
| 交通安全協会 | スポーツ推進委員 | 体育推進員会 | スポーツ少年団 |
| 青少年育成協力推進員会 | 歴史と文化を守る会 | 福祉推進員(社会福祉協議会) | 竹中半兵衛公顕彰会 |
| 農地水環境保全組合 | | | |
| クラブ・サークル連絡会 | | | |

令和4年度の役員

参 考

会 長	高 木 茂 彦 (菩提田町)	地区センター長
副会長	野 田 耕 治 (長畑)	連合自治会長
事務局長	藤 井 厚 美 (大石)	センター員
事務局次長	田 辺 定 幸 (長畑)	センター員
会 計	溝 口 浩 一 (川原)	連合自治会副会長
執行役員	中 川 泰 一 (長畑)	安心安全部
//	永 澤 初 枝 (漆原)	健康福祉部
//	山 田 和 弘 (宮之前)	子ども育成部
//	岩 田 きよみ (谷)	芸術文化部
//	青 木 勝 (南長畑)	スポレク部
//	松 岡 寛 晃 (伊吹)	環境整備部
監 事	浅 野 美津子 (漆原)	
//	熊 崎 皓 一 (宮之前)	
顧 問	鈴 木 準 二 (南漆原)	
//	栗 田 利 朗 (漆原)	

以上

令和4年度 専門部の所管事項

専門部活動の運営要綱

1. 専門部は、構成団体で組織し、構成団体間の連携・調整を図り、相互の活動が容易になるように努めるものとする。
2. 部長は、必要に応じて部員以外の、構成員及び外部の有識者の参加を求めることができる。
3. 部長は、事業を円滑に推進するため、必要に応じて他の専門部と協議し、合同で会議を開くことができる。
4. 専門部が企画運営する事業（活動）について、構成団体は積極的に協力しなければならない。

専門部の所管事項（ ） 内部長

専門部名	所 管 事 項	具 体 的 事 業（活動）
安心・安全部 （中川 泰一）	防災、防犯、交通安全に関すること 児童生徒の通学時の安心・安全に関すること 青少年の非行防止に関すること	こども見守り活動 交通安全対策、災害図上訓練 自主防災隊の連携、災害時の要支援者対応
健康福祉部 （永澤 初枝）	一人暮らしの高齢者との交流に関すること 高齢者・障害者の生きがい活動に関すること 生活支援サービスに関すること 育児支援に関すること 災害時の要支援者対応に関すること	社協との連携による見守りネットワークの強化 一人暮らしの高齢者家庭訪問、給食サービス 要支援者マップの作成、愛の見守り活動 生き生きふれあいサロンの普及 カフェサロンの展開、救急医療情報キットの普及
こども育成部 （山田 和弘）	青少年の健全育成に関すること こども体験活動に関すること 子育て支援活動に関すること	子ども教室（菁莪塾）、子ども会活動の支援 小学校留守家庭児童教室支援、ラジオ体操大会 青少年健全育成地区民大会 中学生の地域貢献活動支援
芸術・文化部 （岩田 きよみ）	文科系講座の企画運営 クラブ活動に対する支援 歴史・文化の保存継承に関すること	夏祭り、芸術文化祭の企画運営 教養講座、歴史講座
スポレク部 （青木 勝）	町民運動会に関すること スポーツ・レクリエーション行事に関すること ニュースポーツの推進に関すること スポーツ系講座の企画運営	町民運動会の企画運営 スポーツ講座 春秋スポーツ・レクリエーション行事の企画運営
環境整備部 （松岡 寛晃）	環境美化活動に関すること 自然環境の保全に関すること 道路・河川などの生活環境に関すること ごみ減量化、リサイクルに関すること	農地・水・環境保全組合との連携 環境美化デー 文化財整備事業、観光対応事業、ほたる祭り 中学生の地域貢献活動支援

専門部の構成 令和4年度

自治会は1年毎に1自治会が下段の専門部へ移動するローテーションを行う。○印は副部長を務める
二つ以上の専門部を担当する構成団体（アンダーライン）は、代表者、運営委員以外の者を派遣することができる。

安心・安全部	○ 川原自治会、菩提田町自治会、消防団、中学校、中学校PTA、小学校、小学校PTA 老人クラブ（男性）、交通安全協会	9
健康福祉部	○ 伊吹自治会、南長畑自治会、福祉推進員、民生児童委員、老人クラブ（女性） こども園、こども園保護者会	7
こども育成部	○ 下町自治会、長畑自治会、 <u>民生児童委員、中学校、中学校PTA、小学校、小学校PTA</u> <u>青少年育成協力推進員、子ども会育成会</u>	9
芸術・文化部	○ 南漆原自治会、五明自治会、歴史と文化を守る会、文科系クラブ代表 商工会、竹中半兵衛公顕彰会、 <u>子ども会育成会</u>	7
スポレク部	○ 宮之前自治会、漆原自治会、体育推進員(2)、スポーツ推進委員、スポーツ少年団、スポーツ系クラブ代表	7
環境整備部	○ 谷自治会、大石自治会、農地・水・環境保全組合、 <u>青少年育成協力推進員、商工会、消防団</u> <u>歴史と文化を守る会、竹中半兵衛公顕彰会</u>	8

運営委員会の構成

役員、顧問、自治会長、中学校、中学校PTA、小学校、小学校PTA、こども園、こども園保護者会、商工会、農地・水・環境保全組合 消防団、老人クラブ、歴史と文化を守る会、民生児童委員、体育推進員、青少年育成推進員、スポーツ推進員、クラブ・サークル代表 交通安全協会、子ども会育成会、福祉推進員会、竹中半兵衛公顕彰会 役員を派遣している構成団体は、その役員が運営委員を兼務することができるものとする。
--

黄色い旗、揚がっていますか!!

「愛の見守り活動」は自治会内の



向こう三軒両隣の見守り活動

この活動は岩手地区を、より安全で安心な地域とするため「まちづくり」の一環として展開しています。

「黄色い旗」の掲揚は、高齢者や高齢単身者、身体の不自由な方などが、住み慣れた地域で、いつまでも安心して暮らし続けられる地域社会の実現を目指し、見守り活動を通じて、異常のあった家庭を早期に発見し、必要な支援につなげることを目的とします。

自治会のすべての世帯が、毎日、朝起きたら玄関や窓、庭先など、近所の方が確認できる場所に、黄色い旗を掲げ、夕方には片づけることを基本とします。

すべての世帯が掲げる目的は、特定の世帯（高齢者だけの世帯や高齢単身者、身体弱者）のみが掲げていることが判ると、盗難や犯罪に利用される恐れがあるため、これを防止するためであり、決して強制するものではなく、自発的に掲げていただくことをお願いするものです。

皆で見守りましょう



- 隣近所の皆さんがそれぞれ見守ることとします。
- 黄色い旗が出ていないまたは片づけていない時は、声をかけてみましょう。
- 異常が発生した場合には、必ず大きな声で、ご近所に知らせ、複数の住民で対処（救急車の手配など）してください。
- 二回の声掛けにも返事がないときは、自治会長、班長、福祉委員などに連絡をしてください。
- 旅行などで外出が続く場合は、ご近所に伝えましょう。

旗が破れた・汚れた場合は、地区センターへ

救急医療情報キット



点検していただけますか!!

**万が一、救急車を呼んだときには
対象者の医療情報を早期に病院へ伝えることが重
要です。情報は、救急隊員から病院へ伝えます。
家族の医療情報をシートにまとめておけば安心。**

救急医療情報キットを備える運動を展開しています

近年、社会生活の変化によって、心筋梗塞、糖尿病などの生活習慣病が若年化の傾向にあります。また、食生活の変化により食物アレルギーによって重篤な症状に陥ることも増加の傾向にあります。

突然の災害や、急病などのときには、適切かつ迅速な処置が必要です。

救護を受けなければならないことが起きた場合、救急隊、医療機関が、その傷病者の正しい情報を早期に得ることが命を守るうえで大変重要です。

岩手地区まちづくり協議会では、家族の医療情報を救急医療情報シートにまとめ、救急医療情報キットとして冷蔵庫に保管することによって、岩手地区の皆さんの安全と安心をより確保する運動を展開しています。

「救急医療情報キット」とは、緊急時に備え、自分の氏名、年齢、持病、服用している薬の名称、アレルギーの有無、かかりつけ医療機関とその医療機関の診察券の写し、緊急連絡先などの情報を記入した情報シートを円形のプラスチック容器などの中に入れ、冷蔵庫の飲料水など保管するドアポケットに保管し、緊急時に活用するものです。この情報シートは、病変に応じて見直すことが大切です。定期的に見直すようにしましょう。

さらに、救急隊に救急医療情報キットが冷蔵庫に保管されていることを知らせるために、玄関を入ったところの目に付くところへ表示マークを貼ります。

エスディージーズ SDGs (持続可能な開発目標) とは？

★2030年までに達成を目指す世界の目標

世界は、貧困、人種差別、環境破壊など、さまざまな問題に直面しています。

こうした地球規模の問題を解決するために「誰一人取り残さない」という共通理念のもと、国際連合（国連）が加盟193カ国が達成を目指す2030年までの国際目標として定めたのがSDGsです。

SDGsは、「Sustainable Development Goals」の頭文字をとった略称で、持続可能な開発目標を意味し、下図のように17の目標が決められています。

たとえば目標①は「貧困をなくそう」、目標②は「飢餓をゼロに」、目標④は「質の高い教育をみんなに」と、さまざまな目標が設定されています。

「貧困をなくそう」が目標になったのは「なくすべき貧困がある」ということです。「飢餓をゼロに」が目標なのは、「飢餓で苦しむ人がいる」からです。

17の目標は、今の地球には多くの問題があることを示しているのです。

★このままでは地球が持たない

なぜ、SDGsに取り組む必要があるのでしょうか。

ズバリ、このままでは地球がもたないからです。人間が利益だけを考えて環境破壊を続ければ、生物多様性はなくなり、将来的に自然の恵みを享受できなくなります。経済も大切ですが、環境をないがしろにすれば、人間に必ず悪影響が及びます。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



新型コロナウイルスの感染防止は 地域全体、家族ぐるみで進めよう

2022年版

新型コロナ
ウイルス

感染拡大防止 へのご協力をお願いします

ワクチン接種後も、「マスクの着用」や「手洗い」、
「3密(密接・密集・密閉)回避」などを徹底してください。



正しく使おう マスク!



- 1 鼻の形に合わせ
すき間をふさぐ
- 2 あご下まで伸ばし顔に
すき間なくフィットさせる

ポイント
会話時は
必ず着用!

- ・鼻出しマスク× あごマスク×
- ・着けたら外側は触らない
- ・ひもを持って着脱
- ・品質の確かな、できれば不織布を



こまめにしよう 手洗い・手指消毒!

こんなタイミングでは必ず!

- ・共用物に触った後
- ・食事の前後
- ・公共交通機関の利用後 など



ポイント
指先・爪の間・指の間や手首も
忘れずに洗いましょう!



目指そう ゼロ密!

一つの密でも避けましょう!!



密接

マスクなし× 大声×



密集

大人数× 近距離×



密閉

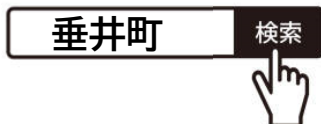
換気が悪い× 狭い所×

▶ 体調不良時の出勤・登校・移動はお控えください。 ▶ ワクチン未接種の方は接種をお願いします。

岩手まち協の情報は WEBのホームページで

以下の手順で岩手まちづくり協議会のホームページをご覧になることができます。
また、インターネットの検索サイトで「岩手まち協」と入力すると、岩手地区まちづくり協議会の頁を開くことができます。

岩手まち協の行事のお知らせや岩手地区の歴史、竹中半兵衛重治公や郷土の偉人についても掲載しています。






岩手まち協所在地：〒 503-2107 岐阜県不破郡垂井町岩手608-2 ☎Fax：0584-22-1007 Email：iwade-machikyo@octn.jp



岩手地区まちづくり協議会は（略称：岩手まち協）は、岩手小学校区で活動する自治会など諸団体によって平成24年12月2日に設立されました。
このホームページでは岩手まち協の基盤である岩手地区の姿、まち協の考え方や組織、活動計画、事業・行事案内などを掲載、紹介します。

新 着 情 報		
岩手まち協の活動	03/13 コーヒーサロン3月～4月の予定	センターの利用方法
	03/02 地区センター3月の利用予定	サークル活動紹介
What's 岩手地区	03/02 まち協たより3月号	竹中半兵衛公を学ぶ
	01/27 まち協たより2月号	菩提山城跡ハイキング
お知らせで～す!!	01/07 青少年健全育成地区民大会を開催 地区民大会プレゼン資料	岩手の先人たち
イベント情報	12/25 まち協たより1月号	
まち協たより	12/23 令和5年岩手小学校は150周年	



竹中半兵衛重治公を学びましょう!!



まちづくりアンケートの結果だ

まち協総会の議案書だよ



岩手地区の風景写真



MEMO

住む人の、
心がふれあい、
ひびきあう「まち」
岩手地区



岩手は わし(半兵衛)の
故郷じゃ